

令和3年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果 (○) と課題 (▲) 全国差：全国平均正答率との差

小 学 校 国 語	
全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）	
○	平均正答率は、68.0%である。
○	平均正答数は、9.5問/14問であり、全国を上回る。※全国9.1問/14問
○	市の平均正答率は、全国差+3.3%である。
学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式別結果	
○	学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」「B書くこと」では、全国差+7.0%である。
○	評価の観点「知識・技能」では、全国差+4.4%である。
○	問題形式「記述式」では、全国差+4.5%である。
▲	思考力、判断力、表現力等「A話すこと・聞くこと」では、全国差-0.3%である。
問題別結果（正答率、無回答率からの分析）	
○	3-3-（2）-イ「文の中における主語と述語との関係を捉える」では、全国差+10.5%である。
○	3-2「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」では、全国差+9.9%である。
○	市の平均無回答率は1.7%であり、全国の平均無回答率4.3%を下回る。
▲	1-3「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」では、全国差-0.8%である。

今後の方策例

「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する授業展開例」

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（国立教育政策研究所）より

Cさんが立てた課題 目的や意図に応じて、資料を提示しながら話す内容について検討する

Cさん

資料を使って、海洋中のプラスチックごみが増えていることを伝えたいんだ。話す内容はこれでいいかな。

海洋中のプラスチックごみが増える？
2014年 vs 2050年

出典 世界経済フォーラムホームページをもとに作成 ※1

スピーチの一部

てごみの量が増え、このままでは、海洋中のプラスチックごみが増え、世界では、毎年、プラスチックごみがたくさん流出しています。

↑

て上回ると言われ、2050年には海洋中のプラスチックごみの量が、このままでは、世界のプラスチックごみの量が、海洋へ流出して、このままでは、毎年、プラスチックごみがたくさん流出しています。

スピーチの一部

「この資料のとおり」って言っていたけれど、どういうことか分からなかったよ。

資料のどこに着目してほしいのか、説明を付け加えたらどうかな。

※1 出典 WORLD ECONOMIC FORUM(2016).The New Plastics Economy [Rethinking the future of plastics]

伝えたいことを踏まえ、資料を使って聞き手に着目してほしい部分を明確にし、その部分が何を表しているのかを聞き手に伝えるように説明することで資料をより効果的に活用することができます。